

JAAC だより

～ “けじめ”の理解 ～

JAAC 日米学術センター
代表 高瀬 永俊

新年明けましておめでとうございます。JAACの学生、保護者の皆様、関係者の皆様、いよいよ新たな年の幕開けです。今年には様々な分野で激動の一年になることが予想されます。わが国、日本は一昨年のサブプライムローンの問題から端を発し、昨年秋口からのリーマン・ブラザーズの経営破綻。日本の様々な企業に大打撃が出て、就業者の解雇も実行されました。全てにおいて消費も下降し、内需の安定も危ぶまれています。輸出に頼らざるを得ない、資源のない国ですからこの経済状況は尋常ではありません。厳しく、辛い年明けになったことは間違いありません。しかしながら、このような状況下だからこそ、自分の進む道に対して真摯に向き合い、決して驕ることなく、邁進してゆかなければならないのではないのでしょうか。

私達、人間は日々の生活の中で様々な『けじめ』をつける瞬間に遭遇することがあります。広辞苑にある『けじめ』の意には(1) 区別、わから、わけめ、(2) 道徳や慣習として守らなければならない区別、(3) へだて、しきり・・・と記されています。この冬休みに帰国した学生の中には、それぞれの地元での成人式に参加され、中学時代の友人や恩師達と、二十歳になったお祝いをした学生も多いと思います。また、就職活動の結果、今春からの社会人になる決意を新たにした学生もいます。留学生活も序盤から中盤、そして終盤を有終の美で飾ることが出来た学生。そしてその保護者の皆様。それぞれの人生の区切りに接して『けじめ』とは何かを共に考えて行きたいと思います。

- (1) 成人式のけじめ・・・親子の独立式・・・随分前から言われていた事ですが、子供の入学式に母親が付き添う。昨今は大学の卒業式や入社式にも親が付き添う時代だとも言われています。いよいよ母子二人三脚の人生航路だと言わざるを得ない状況にあります。私はそれを(母子カプセル)とも呼んでいます。就職の決定さえ母親に意見の比重がある様です。過干渉という言葉があります。子供の親離れも大切ですが、母親の子離れこそ緊急の課題であるのかも知れません。子供がいくつになっても、母にとって、子は子であることは違いありません。過去のいかなる時代でもそうであったと思います。昔の母は子供が一人前になると、独立した個人として尊重し、干渉しないことによって自らも尊重されました。精神的な独立が早かったから、子は老いてゆく親を保護しようと努めました。いつまでも独立できない者がどうして親の老後を大切に出来るのでしょうか。せめて、成人式をケジメに親と子の心の独立を祝うというのはどうでしょうか。もし、子供が離れないのであれば親から離れてゆくことが先決なのかも知れません。
- (2) 社会人となるけじめ・・・豊かさの驕りに陥るべきでない・・・豊かさの時代に育ち、入社式まで母親に伴われて来る現代では社会人になるにあたって『豊かさの驕り』の怖さを知り、自戒することを考えなければならないと思います。『豊かさの驕り』とは元アメリカン・モーターズ会長の G.ロムニー氏の言葉ですが、豊かさの時代に育った若者たちは自力での成功体験がないにも関わらず、成功者の位置からスタートする。自分で驕るつもりはなくとも『豊かさの驕り』が身につけてしまっていると言っています。これから社会に出る人たちは、こうした豊かさの驕りの持つ弱さを、知るべきだと思うのです。豊かさを認めた上で自らを戒めることも大事ではないでしょうか。(アメリカン・モーターズコーポレーション：1954年に設立された米国の自動車メーカー。コンパクトな中型車の生産に尽力しましたが、1987年にビックスリーのクライスラーに買収された企業。)

人生には多くのけじめが存在します。敗戦後の日本はアメリカの影響を多大に受け高度成長期を経て、世界でも有数の経済大国に成長しました。古き良き昭和の時代は過ぎ去り、成長しきったその末に多くのものを失いつつあります。その中でも人間の持つ正しい心は我々、日本人の唯一の特長だったのですが、その正しい心が希薄になってきていると感じるのは私だけでしょうか。けじめをつける。けじめを持てる。けじめを考えられる。そんな人間であり続けたいと、激動の念頭に当たり記させていただきました。

● JAAC 就職ガイダンスの報告 ●

昨年12月23日(祝)クリエート浜松において、(株)グローバルタッチの権代表による就職ガイダンスが開催されました。当日は、冬休みで一時帰国しているミズーリ・カリフォルニアの学生やその保護者の方々にご参会いただきました。

先行きが不透明な経済不況のあおりで、就職活動においても国内外問わず厳しい状況となっています。そうした状況を踏まえ、権代表からは次についてご講演をいただきました。

- (1) 国内、国外の雇用情勢
- (2) アメリカへ留学している学生の就職活動の現状・・・インディアナ州立大学の実態を例にとって
- (3) 求められる人材像・・・企業側と学生のギャップ
- (4) 留学生の就職活動への取り組み・アドバイス (具体例)
- (5) 質疑応答

サブプライムローン問題の深刻化から昨年のリーマン・ブラザーズの経営破たんを端を発し、輸出の低迷、自動車や精密機器の生産調整、期間労働者の解雇、新卒者の内定取り消しと、不況の輪はどんどん拡大しています。アメリカ大学で学ぶ日本人留学生にとって、明るい材料として類、稀な英語力と留学生活で培われた、問題解決能力。この2つのスキルは企業側からしても見逃せない要素となっています。世間の情勢が悪いからと言って、何もかもが駄目になった訳ではありません。自己の英語力に更に磨きをかけ、専門課程で学んだ学識を活かし、留学生活で身につけた人間力をいかに発揮する事が出来るかが、就職活動において重要なポイントとなります。

就職活動で行き詰まったり、まだ実際に動き出していない学生は、JAACにお気軽にお尋ね下さい。

<<< あなたの“未来予想図”はもう描けましたか? >>>

— 自分の目標に向ってのロード・マップを作成してみましょう —

2008年1月15日発行の「JAAC だより2月号」の誌上で、『今年の目標は決まりましたか? -“1年後の自分の姿を想像してみましょう”』という原稿を掲載してからちょうど1年が経ちました。1年間という年月の流れは、長いようでいて短いように感じますね。さて、今の皆さんの姿は、1年前に自分なりに描いてみた”未来予想図”の中の自分の姿“になっていますか? 皆さんの中には、GPA を引き上げることができた人や希望通りの大学に編入できた人、そして、予定通りに卒業をして、希望通りの職種に就職ができた人もいます。また、様々な個人的な目標を持って、この1年間を過ごしてきた人もいます。私も自分なりの未来予想図を描いて、今日まで歩んできたのですが、残念ながら“自分で決めた目的地”までたどり着くことができませんでした(苦笑)。自分なりに組んだ計画が無謀過ぎたり、計画に沿った実行が伴わなかったり、そして、時にはやる気が失せたりする時だってありますよね。人間ですから、機械のように動けません。そこで、去年1年間を歩んできた道のりを振り返りながら、今年、自分が歩もうとしているルート地図を作ってみませんか。

道路地図を見ながら目的地までのルートを確認する時、ある地点(都市名など)から次の地点までの距離が記載されているのに気がつかれると思います。その距離から、各地点間のおおよその所要時間を割り出すことができますね。目的地までの距離が長ければ、当然、そこに行き着くまでの所要時間も多くなります。短時間で移動するには、早いスピードで移動しなければなりませんね。私たちが自分の目的に向って立てる計画も、この道路地図のようなものではないでしょうか。

まず、自分の現在地を知り、次に自分の目標となる地点、つまり目的地を定めます。そして、そこに行き着くまでに通過する地点を確認します。それは即ち、自分の目標を達成するために行わなければならないことの確認と、それを成し遂げるまでに要する時間を見出すこととなります。ある目標の達成のためには、ほんの1ヶ月程度でできることもあるでしょう。また、ある目標を達成するには1年近くを要することもあるでしょう。毎日、1年近くも同じ事をコツコツと繰り返す努力することは決して容易いことではありません。でも、それを止めてしまったら、自分が目標としている目的地へは永遠にたどり着けませんね。車で移動する際にも、途中で運転を止めてしまえば、いつまでたっても目的の町へは着けませんからね。でも、人間ですから長時間の運転は疲れるし、危険でもあります。ですから、時間を決めて適度な休憩を取ることも大切なんです。私たちが立てる計画も“動く時”と“休む時”を入れて、メリハリを持たせましょう。

ですから、1年後の私たちの目標に向って立てる計画も、決して無理をせず、自分のペースに沿ったものでなければいけませんね。一番大切なことは、確実に自分の目標地点に行き着くことではないでしょうか? 他人よりもほんの少し早く目的地にたどり着いても、そのために思わぬトラブルを抱えては、かえって時間をロスすることにもなりかねませんからね。私たちは、将来の皆さんの“未来予想図”を見るのを心から楽しみにしています。

(カリフォルニア事務局:照井)

【編集後記】 ●いよいよ新しい年を迎えました。新たな目標に向かって邁進しましょう。また、今年、成人式を迎えられた JAAC 生の皆さん、ご成人おめでとうございます。そして、保護者の皆様におかれましては、お子様のご成人誠にありがとうございます▼昨年からの世界的経済危機は、今年になってもなおその勢いは衰えていない。失業者の増大、企業の倒産数の増大、企業の大幅な収益減、等々、数えてみれば明るい話は少ない。来年の今頃は、今年を振り返り見て、どのような話題について話しているのだろうか◆日本の大学生の中には、今年からの採用取り消しの通知を受けた学生が大勢いる。ある就職斡旋会社の関係者からは、留学生の就職の方が、まだ有利な点があると聞いている。いずれにしても、楽観はできない時代である。JAAC 生においては、将来の就職に有利な専攻を選ぶことも必要だろう。就職に有利な専攻はどのような科目なのか、JAAC のカウンセラーと良く話し合いをする機会を持ってほしい★昨年8月に、米国国土安全保障省（DHS）が新たなテロ対策の一環として、ESTA 電子渡航認証システムの導入を決めた。今年の1月からは同システムの申請と認証が義務付けられた。中東での局地的戦闘が続いている中で、依然、テロの脅威は残っている。まもなく新しい米国大統領が誕生するが、オバマ新大統領によるテロ対策に期待したい。米国内の金融破綻や経済危機をどのように乗り切るかも、新大統領の手腕によるところだ。今までの日米間の関係を見る限り、オバマ新大統領の政策が日本に与える影響は大きいと思われる。これからますます、目が離せなくなるだろう。日本の政界でも色々な事が起きている。日本の政権に国民の声が本当に届く日は来るのだろうか。今年こそ“期待”したい。（カリフォルニア事務局：照井）

— 「ESTA 電子渡航認証システム」についてのお知らせ —

2009年1月12日から、アメリカへの渡航と入国に際しては予め ESTA 電子渡航認証システム（エスタ：Electronic System for Travel Authorization）による申請と認証が必要となりました。このシステムは米国国土安全保障省（DHS）によりその導入が決定され、2009年1月12日から同システムを開始したものです。この新しいオンラインシステムは、ビザ免除プログラム（VWP）の一部であり、米国に短期商用・観光目的（90日以下）で入国する「ビザ無し一般渡航者」は、米国行きの航空機や船舶に搭乗する前にオンラインで渡航認証を受けることが必要になる、というものです。

※詳しくは下記のホームページをご参照ください。

1. (社) 日本旅行業協会 (JATA) からのご案内：http://www.jata-net.or.jp/08esta_info.htm
2. アメリカ大使館からのご案内：
 - ①ESTA 電子渡航認証システムについて：<http://japan.usembassy.gov/j/visa/tvisaj-esta2008.html>
 - ②ESTA 電子渡航認証システムについての Q&A：<http://japan.usembassy.gov/j/visa/tvisaj-estageneralfaq.html>

※ このシステムは、F-1 ビザ（留学生ビザ）を取得している JAAC 生においては必要としていません。しかしながら、留学中のお子様を訪ねる目的等でアメリカに渡航される保護者の皆様におかれましては、このシステムにより渡航前に ESTA の申請と認証が必要となりますので、ご注意ください。同システムのご案内とご説明は上記のホームページに記載されておりますが、ご不明な点などがございましたら、お近くの旅行会社や旅行代理店にお尋ねいただくことをご勧めいたします。

Let me remind you . . .

★JAAC 生の皆さん、保護者の皆さん、大切なご案内です★

◆新学期を迎えた皆さんへ： 受講する科目は事前に登録した通りになっていますか？ 科目の登録変更をする際はその期日等を予め確認し、また、登録変更についても大学のカウンセラーやアドバイザーと必ず話し合いをしてから登録変更の手続きを行いましょう。

■一時帰国からアメリカに戻られた皆さんへ： アメリカに再入国する際に記入した I-94（白色の入国カード）がパスポート内にホッチキス等で留められていると思いますので、失くさないようにパスポートと一緒に大切に保管してください。同カードは、次回、日本に帰国する際に必要になります。

●JAAC 本体内保護者様専用ご連絡・ご相談窓口：

フリーダイヤル 0120-525-626 tokai@jaac.co.jp 担当：高瀬

◎ JAAC 日米学術センター 鈴木：t.suzuki@jaac.co.jp

◎ カリフォルニア担当：照井 k-terui@mtg.biglobe.ne.jp 新井 koheiarai@hotmail.com